シルクロードと日本人観光客

リシャラテ・アビリム
（山口大学東アジア研究科）
朝　水　宗　彦

Abstract

Silk Road destinations have been famous among Japanese people. After open door policy of China, Japanese visitors increased. World Heritage tours are also popular for Japanese since early 1990s. However, number of Japanese visitors to China is decreasing recently. To sustain Japanese visitors, networking of tourist destinations and variation of local activities are needed.

Keywords: Silk Road, World Heritage, Nongjiale

はじめに

近年，中国の一帯一路政策は日本でもよく知られており，同政策に関連した貿易や経済協力関連の研究が日本語でも少なからず出版されている。さらに，学校教育にて日本ではシルクロードについて学ぶため，同地域の歴史的な観光目的地もまた日本ではよく知られている。

シルクロードと日本の古代文化には強い結びつきがある。たとえば奈良時代に建てられた奈良の東大寺の正倉院はたくさんの宝物を納めており，西方からたどり着いた物品にはペルシアやギリシア，ローマ，エジプト等の影響も認められる（Imperial Household Agency, n.d., web）。

明治時代に近代化を遂げた日本にとってもシルクロードは魅力的であった。たとえば大谷探検隊は1902年以降何度も西方の探検を続けており，仏教遺跡にて発掘調査を行った。同時代の探検家であるヘディンやステインが大々的に美術工芸品の発掘を行ったのに対し，大谷探検隊は小規模ではあるが重要な経典の発掘に貢献した（Galambos, 2008, p.29）。

シルクロードは画家の平山郁夫や作家の井上靖などの作品に何度もあらわされており，日本ではよく知られている。さらに，1980年以降NHKで放映されているテレビ番組のシルクロードのシリーズは多くの日本人を魅了してきた（NHK, n.d., web）。

本研究では，上記のように日本で良く知られているシルクロードにおける観光に注目し，その特徴と問題点について解明する。さらに，同地域の観光に関する問題点については，今後の解決策について考察する。

１．研究方法

本研究は前半の文献研究と後半の現地調査に分けられる。前半の文献調査では，主に朝水が基礎的な観光客統計等を収集した。後半では新疆ウイグル自治区の出身のリシャラテが現地にて聞き取り調査を行った。

まず，先行研究であるが，シルクロード自体が日本では知名度が高いため，同地に関する観光研究もまた少なくない。たとえば，世界観光機関の関連団体であり，日本に事務局があるAPTEC（Asia-Pacific Tourism Exchange Center）は中国からトルコまでの地域において数度の調査を行い，シルクロード観光に関する報告書のシリーズを出版している（APTEC 1998, APTEC 1999）。

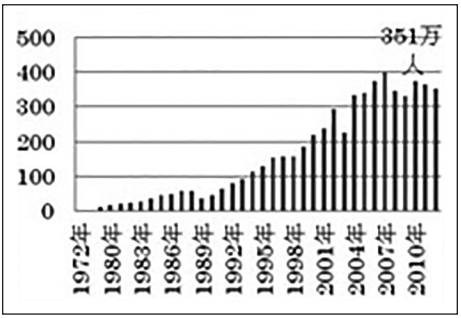
シルクロード観光に関する個々の日本人研究者による現地報告も少なくない。たとえば加藤は新疆ウイグル自治区に関する著作を何部も有するが，その延長として中央アジア諸国のグリーンツーリズムについてもまた出版している（加藤2016）。

シルクロード地域の地元出身の研究者が日本語で論文を執筆した事例もいくつか見られる。たとえば古麗扎爾（2010）は持続可能な開発の視点から，新疆ウイグル自治区の観光を考えている。馬依拉他（2016）は新疆ウイグル自治区の観光地の写真を用い，日本人観光客の潜在的なマーケットの調査を行っている。

２．歴史遺産観光と日本人

先述の大谷探検隊の時代であれば，政治的な理由から，ロシア経由でシルクロード各地を訪問することもあった。しかしながら，日本から見ると，中国経由でシルクロードを訪問する方が地理的には容易である。日中観光であるが，1978年の中国の改革開放政策により，日本人による中国への訪問がより行いやすくなり，80-90年代に日本から中国への訪問者は急増した（図１）。

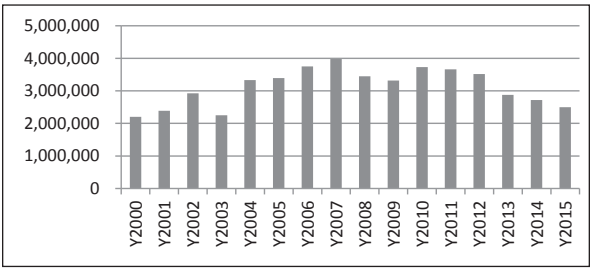
図１　中国に訪問した日本人の数（1972-2012年）



出典：鈴木, 2014, p.86

現代の日本人にとって，ユネスコの世界遺産への訪問は人気がある。特に，日本が1992年に世界遺産条約に加盟してから，ヘリテージ・ツーリズムは日本人にとってより注目されるようになった。シルクロードに関連するヘリテージ・サイトのいくつかは世界遺産に登録されており，観光地としてよく知られている。龍門石窟や莫高窟，敦煌などは日本でも知名度が高い。しかしながら，中国を訪問する日本人観光客の数は2007年以降低迷している（図２）。

図２　中国に訪問した日本人の数（2000-2015年）

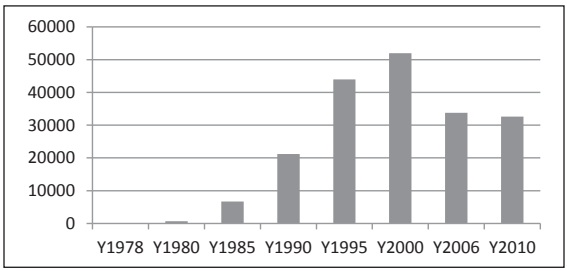


出典：JTB総合研究所, n.d., web

他方，世界遺産としてのシルクロードは新たな段階を迎えている。2014年にシルクロードのうち，中国，カザフスタン，キルギスの部分が「長安－天山回廊」として広域的に世界遺産にノミネートされた。この広域ノミネートにより，大雁塔や玉門関，トルファンの交河故城などが新たに世界遺産に加えられた。これらの歴史遺産もまた観光地として日本人にとってよく知られている。

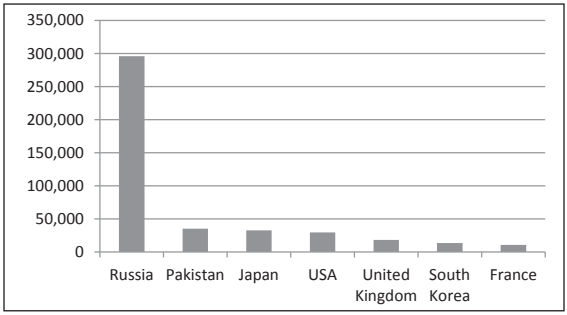
しかしながら，同地域を訪問する日本人の数は，統計的には楽観視できない。たとえば，新疆ウイグル自治区を訪問した日本人の数は2000年まで増加したが，その後は低迷している（図３）。少し古い資料になるが，2010年に新疆ウイグル自治区に訪問した外国人はロシア人が圧倒的に多い（図４）。

図３　新疆ウイグル自治区を訪問した日本人数（1978-2010年）



出典：Y1978-Y2006, 古麗扎爾, 2010, p.34,
Y2010, anna.aero, n.d., web

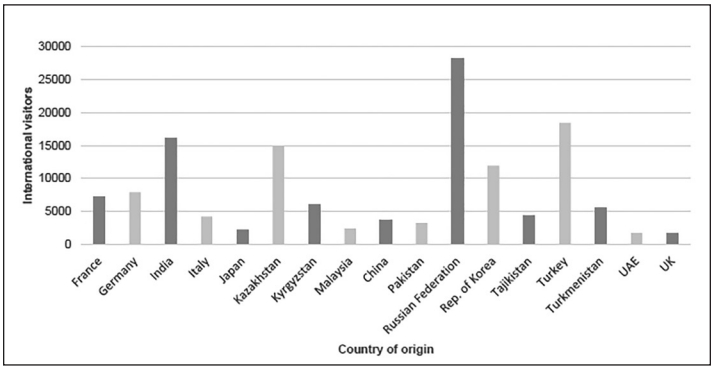
図４　新疆ウイグル自治区を訪問した主な外国人数（2010年）



出典：anna.aero, n.d., web

なお，参考までこの地域の近隣国であるウズベキスタンにおける外国人観光客を見てみると，やはりロシアからの訪問者が多い（図５）。したがって，この地域の観光をマスツーリズム的に発展させるには訪問者が多いロシアからのマーケットを重視する必要がある。他方，日本人観光客を呼び込むには，小規模であるが特定層にターゲットを絞ったSIT（Special Interest Tour / Tourism）が重要であろう。

図５　ウズベキスタンを訪問した主な外国人観光客数（2013年）



出典：UNWTO, 2015, p.2

３．シルクロード地域に訪問した日本人が好む観光地

すでに観光地が有名であり，多くの観光客が訪問している場合，大規模なアンケート調査で客観的なデータを集めることが可能である。しかしながら，先述のように，新疆ウイグル自治区やその周辺諸国を訪問する日本人の数は比較的少数であり，しかも広大な地域に散在しているため，アンケートによる大規模な調査は困難である。

他方，少数ではあるが，同地にはすでに日本人観光客が訪問している。そこで，リシャラテは新疆ウイグル自治区内のトルファンやカシュガル等で歴史的な遺跡を訪問した日本人観光客に対し，聞き取り調査を行った。聞き取り調査時期は2014年4月－2015年10月であり，観光した後の感想に関する聞き取りを何回かに分けて行った。聞き取りの主な内容は以下のとおりである。

A氏　日本人男性，33歳，福島県出身，2年間現地の教育仕事に携わっていた教員

トルファンは「ウルムチの後ろの果実」と呼ばれ，古代の歴史が魅力的ですね。だけど古代遺跡の恵まれた農村部に行かないと，本当のウイグル族の文化が見られません。

B氏　日本人男性，52歳，埼玉県出身，同地域滞在体験者

トルファンでは農家楽（＝中国のグリーンツーリズム）における「民族性」と「文化性」が濃厚という印象を受けました。何よりも，経営者本人がウイグルの「ブドウ文化」の担う手である農家であり，農家楽全体に「ブドウ」が反映されているという点が強く印象に残っています。

農家楽を体験しましたが，ここでは「地域文化」がブドウ農業のそのも

のであり，「文化」と「観光」の一体化を見て取ることができます。個人的には，ホジャさん（＝トルファンの農家楽の経営者）のウイグルらしい農家楽の魅力に強くひかれました。古代から知られたオアシス都市にあり，本業にして地域の伝統産業であり，ブドウ栽培に立脚し，しかも周辺には，豊富な文化遺産があるからです。ウイグル固有の文化をより多く持っているという点で，グルバハル農家楽に魅力を感じました。

A氏とB氏は新疆ウイグル自治区との関係が深い日本人である。新疆ウイグル自治区を代表する歴史文化遺産の多くはトルファンの近くに存在しており，なおかつトルファンでは伝統的な暮らしを営んでいる地元の人々も少なくない。まさにリシャラテが提唱する「オアシス・ツーリズム」の理想に近い形がグルバハル農家楽で実践されているであろうと想定される。

C氏　日本人男性，66歳，北海道出身，観光客

地域の歴史，遺跡と少数民族の生活景観が魅力的です。ウイグル農村の文化，生活習慣を体験できる場所としてよい。けれども，観光地と呼ばれ，チケットを販売する観光スポットだと，地域性があふれているものはそのものでは見られなく，飾り立てた単なる金儲けのための資源開発をしすぎたため，偽物観光地のイメージが強く感じられました。新疆ウイグル自治区の本当の生活文化，つまりカザフ族，モンゴル族の草原地帯，山地で現地の人々が行っている観光がいいと思います。生活のそのものが見られるし，少数民族地域のイメージが感じられます。

D氏　日本人男性，69歳，北海道出身，観光客

新疆ウイグル自治区の中でも様々な街があり，そこに住む民族が違っていたので，それぞれの雰囲気がありました。シルクロードの町の歴史，

遺跡と現地の少数民族の生活景観は魅力的で，シルクロードのにおいがします。都会の大規模な観光地や農家楽などで見学するものは近代的なものが多くて，そこには少数民族地域の文化，風俗と習慣は感じられないような気がしました。

C氏とD氏は一般の観光客で，都市部や商業化された観光地を訪問したが，商業化された観光地に対してネガティブな意見を持っている。それに対し，C氏とD氏はありのままの田舎の生活に対して魅力を感じている。つまり，歴史的な遺跡に加え，現在シルクロード地域に住んでいる地元の人々の伝統文化もまた重要な観光資源になり得る。

E氏　日本人男性，64歳，東京都出身，観光客

南のカシュガルから北へ進んで移動すれば，天山山脈を越えます。タクラマカン砂漠から天山山脈を超えると，風景はがらんと変わり，目の前に，緑，遊牧民族のパオ，草原で広がっている動物が表れます。その時の感激は金でも買えません。

F氏　日本人男性，37歳，広島県出身，観光客

シルクロードの古代町として知られているカシュガルのエイティガール寺院の裏手に，お土産店が建ち並ぶ職人街が広がっていました。木工細工，楽器，金属製品など民族の生活必需品が職人の手によって作られているのを見ることができ，眺めているだけでも楽しかった。手作りの良さを感じました。

E氏は景観，F氏は職人に興味を持っており，それぞれの好みは異なっている。サンプル数が少ないので断言はできないが，これらの意見を一つ一つ

丁寧に汲み上げていくことがリピーターや口コミ観光客の獲得につながり，今後の日本人観光客の持続的な誘致にとって重要であろう。

おわりに

以上，本研究では，日本で良く知られているシルクロード各地における観光に注目し，その特徴について述べてきた。シルクロード各地は歴史遺産が豊富な観光地として知られてきたが，各歴史遺産単独のみならず，シルクロード自体も部分的に世界遺産として広域登録された。広域観光の可能性はメリットであるが，新疆ウイグル自治区における日本人訪問者の数が伸び悩んでいることは問題点として挙げられる。

他方，同地域に訪問した日本人観光客に対する聞き取り調査によれば，農村部に生活する地元の人々の暮らしそのものが観光客にとって魅力的であることがわかった。従来からの歴史遺産に加え，この地における人々の伝統的な生活を観光資源とすることは，今後の観光発展のために重要であろう。

参考文献

anna.aero（n.d.）“Urumqi Diwopu International Airport（URC/ZWWW）”, http://www.therouteshop.com/profiles/urumqi-diwopu-international-airport/, Accessed March 7, 2018

APTEC（1998）「シルクロード地域　各国観光情報収集調査　中国西域編　報告書」APTEC

APTEC（1999）「シルクロード地域　各国観光情報収集調査　トルコ・シリア編　報告書」APTEC

Galambos, Imre（2008）“The Third Ōtani Expedition at Dunhuang - Acquisition of the Japanese Collection of Dunhuang Manuscripts”, *Journal of Inner Asian Art and Archaeology*, 3, pp.29-35

古麗扎爾 阿不都肉蘇里（2010）『新疆ウイグル自治区における持続可能な観光発展』神戸大学博士論文

Imperial Household Agency（n.d.）“About Shosoin”, http://shosoin.kunaicho.go.jp/en-US/

Home/About/History, Accessed March 7, 2018

JTB総合研究所（n.d.）「観光統計」https://www.tourism.jp/tourism-database/stats/outbound/, Accessed March 7, 2018

加藤公夫（2016）『中央アジアの旅』連合出版

馬依拉 阿夏木江，比屋根 哲，山本 清龍（2016）「日本人旅行者の海外旅行志向：―中国新疆ウイグル自治区の観光振興にむけて―」『日本森林学会誌』98(2), pp.74-78

NHK（n.d.）“The Silk Road”, https://www.nhk.or.jp/digitalmuseum/nhk50years_en/history/p20/index.html, Accessed March 7, 2018

大谷探検隊（2004）『シルクロード探検』白水社

鈴木 晶（2014）「日中観光の変遷に関する研究」『別府大学短期大学部紀要』33: pp.81-93

UNWTO（2015）*Uzbekistan Tourism Insight*, UNWTO